５．本事業の成果

＜教材開発＞

◎ “学級新聞”を使用した教材は新規性、応用性で高評価。一方、パソコンを使わない学習の限界もあった。

・本事業ではインターネットを利用する（実践の）前の児童に情報の取扱の難しさを体験させ、自ら考える機会をつくることを目指し、対象学年を小学４年生に設定した。必然的に文字入力不可、パソコン利用不可などが前提となり、“学級新聞”を教材として取り上げることとなった。その結果、授業内容が情報リテラシ（道徳教育や国語教育）に傾倒し、“学級新聞”で学んだことをパソコンやインターネットを使う上で生かすことを、子供たちに印象付けた印象が薄い。

＜研究授業＞

◎４年生の理解度、国語力に予想以上の困難さ。参加型手法には手応えがあった。

・ 前述の目的で研究授業を実施したが、思ったような成果を得られなかった。得られなかった原因は、以下の３点に集約される。

①間接的な指導方法

パソコンを使わず、学級新聞という間接的な学びの道具を使ったため、児童が学習内容をパソコンやインターネットの操作のことだと関連付けることが難しかった。

②対象学年のインターネットに対する理解度の低さ

①と関連するが、４年生はインターネットに対する理解度が低く、パソコンやインターネット上の問題だと結びつけて考えさせることができなかった。

③対象学年の国語力にあった教材のことば選び

情報モラルを学ぶ以前に、学級新聞に例題として書かれた文章が、講師側の意図と異なる解釈をされてしまい、狙いどおりにいかなかったところがあった。４年生の国語力に合った例題づくりが必要だと感じた。

・「実践前に理論を教えるのは難しい」ことを明らかにできたことは意義深い。

・ メディアリテラシはパソコンリテラシの上に成り立つものである。今回の研究授業では、小学４年生の成長レベル（経験知、国語力、心の発達など）ではネット・トラブルに巻き込まれる危険性は低いのではないかと感じた。一方で、少し学年が上がる（例えばキーボードでローマ字入力ができるようになる）だけで危険度は高くなり、対象年齢の設定の難しさを再認識した。

・現場の教諭の意見を聞けたのは意義があった

・教材で利用したカードが奏功し、全員参加型の活気ある授業を行えた。

＜協働の成果＞

◎学校や複数のＮＰＯの協働によって得られた教材と学習プログラムを実地で行うことができた意義は大きい。

・ 各団体の経験や知識を活かした教材を開発できた

・ パイロット事業採用前は実施出来なかった研究授業を行うことが出来た。（今年度静岡市協働市場で「ネット安全教室」（NPO 法人・ｅ･Ｌｕｎｃｈ提案）が採用されたが、旧静岡市内の小学校ではまだ実施されていない）

・団体の枠を超え、一丸となって取り組むことが出来た

・本事業で得たものは、各団体の活動でも活かされると推察される

６．今後の課題

＜今後の情報モラル教育と教材＞

・ 学校や地域によってバラつきがあるが、対象児童は、パソコンやインターネットをすでに使い始めている児童の方がやりやすいものと思われる。そうした理由で高学年に設定した方がよい。実体験のない児童に学ばせるのは難しい。実践をしている学年であればパソコンを使った授業展開が可能となり、より大きな成果が期待できる。
・ 家庭教育における情報モラル教育の支援が必要性である。
・ 新聞を利用した教材はヨコの広がりが可能。ライブラリ化し、児童や時流にあったテーマ選択ができるようになるとよい。

＜ＮＰＯ、学校、教育委員会等の連携＞

・ 協働で参加したＮＰＯ全員のコンセンサスを得ること。今回は諸事情により、全員が全回出席出来なかった。それが教材の方向性について温度差を生じさせる一因になったと考える。どのように総意を形成させるか、今後の課題である。
・ 現場の教諭を交えて教材を作るのが望ましい
・ 家庭教育・学校教育・社会教育の連携が必要であり、それらを包括的に捉える枠組みが必要。
・ 研究事業の実施を学校に依頼したが、既に年間行事が決定した後で、なかなか実施校が決まらなかった。前年のパイロット事業でも指摘があったが、各学校の行事が決まる段階で組み込めるのが望ましい。

・ ＜継続的な仕組みづくり＞
・ 教育関係者との意見交換会を設けるなど、より現場に即した授業を実施できるよう努めたい。また継続・発展できるような協働の道を模索したい。
・ 次年度以降も研究会として継続したいが、活動資金の確保が難しい。今こそ情報モラル教育が必要な時である。情報モラル教育の必要性をご理解いただき、より多くの学校にご導入願いたい。
・ 本事業では情報モラル教育の一本化を目的に、「インターネットのルールとマナーをすべての小学４年生に学ばせること」を目指した。しかし授業実施の判断は各学校に委ねられているのが実情である。実施学年はともかく、全ての小学生が一定水準の情報モラル教育を受けられるよう、市の施策として取り組んでいただけるようご検討願いたい。「しずおかデジタルコンテツバレー構想」を謳っている静岡市である。それにふさわしい情報教育の導入をぜひお願いしたい。